県防水工事業協組総会

教育の充実等決める

経営改善と労災防止に努めていこう――と挨拶する上別府理事長＝鹿児島市のパレスイン鹿児島で

県防水工事業協同組合（上別府尚理事長）は23日、鹿児島市のパレスイン鹿児島で14年度通常総会を開き、協同購買の推進や教育事業の充実等を柱とする新年度事業計画を決めた。

総会の冒頭、上別府理事長が「公共事業や民間工事が減少する一方、各種の許可業者は増加し、厳しさだけが増す昨今である。全国で1日に約15社ほどが倒産しており、それも地方にしわ寄せがきている現状である。時代の流れと変化に対応すべく経営改善と労災防止に努めていこう」と挨拶。

議長に山崎洋氏（㈱山崎商会）を選出して行った議案審議では、13年度事業報告及び決算報告、14年度事業計画案並びに予算案などを審議し、全会一致で可決承認した。

新年度事業計画は、①購買事業の推進②組合検査の実施及び追跡・事前調査の実施③組合保証制度の継続④教育事業の充実として年2回の技術講習会や安全に対する講習会等の開催⑤組合員の福利厚生―などを掲げている。

また総会に先立ち、「建築改修工事共通仕様書」が平成14年度版として改訂されたことから研修会を実施して理解を深めた。

新入会員は次の通り。

ケイ産業㈲　㈱アート・ジャパン

石釜トンネル安全祈願祭

無事貫通を祈願

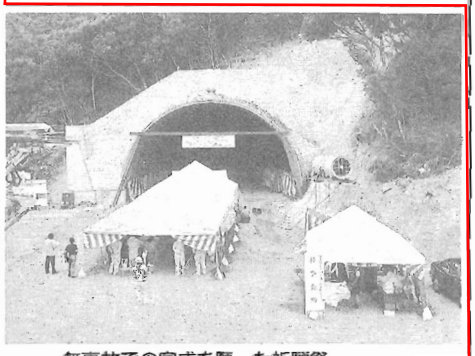
県が大島郡住用村役勝に建設を進めている石釜トンネルの安全祈願祭が23日、住用村の現地で行われ、県や施工業者、村関係者らが出席し、鍬入れの儀などの神事で工事の安全を祈願した。

神事では祝詞奏上、清め祓いなどの後、川島健勇大島支庁長が刈り初めの儀を行い、続いて施工業者を代表して㈱平良建設の平良文仁代表取締役が鍬入れの儀、友原建設㈱の友原菊三郎代表取締役が穿ち初めの儀を行った。また平良、友原両氏、河野吉博住用村長らが次々と玉串を捧げ、同トンネルの無事故での完成を祈願した。

建設を進めている区間は、屈曲部が連続し見通しが悪く、また小中学生の通学路となっているにもかかわらず歩道も未整備で交通の隘路区間となっている。さらに、現道は殺鬱川と急峻な山岳に挟まれており災害が発生しやすい状況となっている。同トンネルが完成すると、これらの問題を一気に解消することになるものと期待されている。

同トンネルは延長2100㍍、全幅員11・25㍍（車道6㍍）で、工法はNATM。施工は㈱平良建設・友原建設㈱JV。

貫通は15年3月予定で、照明、防災施設工事を終えた同年4月にも供用開始を予定している。


無事故での完成を願った祈願祭＝住用村下役勝の現地で

県建設業協会 出水支部ソフトボール大会

野村建設工業が優勝

県建設業協会出水支部（桑木行喜支部長）は23日、出水市の市営総合グラウンドで開催のソフトボール大会で、野村建設工業チームが優勝した。

当日は、21チーム約300人を前に、桑木支部長が「恒例の大会です。本日は、朝から晴れわたり風もなく、日中は高温になる事が予想されますので水分補給をしながら、くれぐれもけがのないようプレーし、仕事を忘れて大いに親睦を深め、明日への活力を養って下さい」と挨拶。

引き続き、2年連続優勝の丸久㈱建設から優勝旗が返還され、4パートに分かれて開幕、10人制のスローピッチ段階で、2チームの計8チームで決勝トーナメントの熱戦を繰り広げたが、4号ボールは打てど飛ばず、投げれば届かず、回を重ねるごとに日差しが強くなり、炎天には慣れているはずの猛者連も悪戦苦闘し、走者一掃のホームランありエラーありの好プレー・珍プレー続出で、応援席からの舌戦もすさまじく爆笑の連続だった。

炎天下の中、熱戦を展開した大会＝出水市の市営総合グラウンドで

決勝トーナメント1回戦では、昨年の優勝戦と同じ組み合わせとなった桑木組と丸久㈱建設は、桑木組が雪辱を果たして野村建設工業との優勝戦に臨み、規定の5回で決着がつかずに促進ルールで延長戦を戦った結果、野村建設工業が2対1で接戦を制して優勝した。

主な成績は次の通り

優勝＝野村建設工業㈱▽準優勝＝㈱桑木組▽3位＝㈱小田原建設▽4位

県測量設計業協会 測量の日記念講演会

技術のＩＴ化等学ぶ

測量の日の記念事業として県測量設計業協会（福田光一会長）は23日、鹿児島市の市勤労者交流センターで講演会を開き、自然環境を生かした講演や測量技術のＩＴ化などの説明に出席者は今後の公共事業に直接関係する話題とあり真剣に聴講した。

講演会に先立ち、福田会長が「測量業界も測地成果2000など大きく変わる中、公共事業のあり方なども問われている。そのような背景のもと、我々も行政機関と相まって公共事業のあり方を公共事業について講演内容の要旨や活用などについて説明した後、本題に入った。河川の自然環境と川づくりについては、大隅半島に流れる肝属川、姶良川、高山川などの概要や生態系などを説明し、「それぞれの川で環境などを含め話し合いすることがこれからは重要」と述べた。参加者らは各講師の話に真剣に聴講した。

真剣な表情で技術を学ぶ参加者ら＝名瀬市の名瀬小学校旧体育館で

自然環境を生かした整備の説明等があった講演会＝鹿児島市の市勤労者交流センターで

この中で、西課長は国の出前講座について、公共事業について講演内容の要旨や活用などについて説明した後、本題に入った。河川の自然環境と川づくりについては、大隅半島に流れる肝属川、姶良川、高山川などの概要や生態系などを説明し、「それぞれの川で環境などを含め話し合いすることがこれからは重要」と述べた。参加者らは各講師の話に真剣に聴講した。

備前大隅工事事務所の西保幸調査第一課長が「河川の景観要素と川づくり」、福田会長が「200年前に伊能忠敬が測った薩摩」、鹿児島測量専門校の岡中龍児教頭が「測量技術のＩＴ化」、かごしまカヤックスの野元尚巳代表が「小型GPSを用いた沖縄～鹿児島の航海術」などについてそれぞれ講演した。

このあと、九州地方整備局大隅工事事務所の西保幸調査第一課長が「河川の景観要素と川づくり」、福田会長が「200年前に伊能忠敬が測った薩摩」、鹿児島測量専門校の岡中龍児教頭が「測量技術のＩＴ化」、かごしまカヤックスの野元尚巳代表が「小型GPSを用いた沖縄～鹿児島の航海術」などについてそれぞれ講演した。

県畳工業組合講習会

大島で開催 手作業で作業励む

県畳工業組合（壇田勇理事長）は20日、21日の両日、名瀬市の名瀬小学校旧体育館で事前講習会を開き、参加者らは来年の検定試験に向け技術習得に努めた。

同講習会は毎年1回、鹿児島市で行われているが、同組合大島支部（美佐恒七支部長）からの要請を受け承諾、5年振り本島はじめ喜界、徳之島、沖永良部、与論の各離島からも参加。増田理事長と原田正人氏のアドバイスを受けながら、手作業での畳作りに励んだ。

増田理事長は「普段は機械での作業が主だが、試験は手作業になる。基本を知らなければ機械に使われてしまう。畳作りは千年の歴史があると言う事を受け継ぎ、伝承していかなければならない」と挨拶。

このあと、九州地方整備局大隅工事事務所の西保幸調査第一課長が「河川の景観要素と川づくり」、福田会長が「200年前に伊能忠敬が測った薩摩」、鹿児島測量専門校の岡中龍児教頭が「測量技術のＩＴ化」、かごしまカヤックスの野元尚巳代表が「小型GPSを用いた沖縄～鹿児島の航海術」などについてそれぞれ講演した。

この中で、西課長は国の出前講座について、公共事業について講演内容の要旨や活用などについて説明した後、本題に入った。河川の自然環境と川づくりについては、大隅半島に流れる肝属川、姶良川、高山川などの概要や生態系などを説明し、「それぞれの川で環境などを含め話し合いすることがこれからは重要」と述べた。参加者らは各講師の話に真剣に聴講した。

参加者らは、鋏断からヘリを縫い止める等出し、ござ張りなど細かい作業を黙々とこなしていた。その間、増田理事長がいわの寄らないござの張り方を指導したり、原田氏が直接指導やアドバイスを行い、若手の畳業者らは真剣な表情でプロの技を学んでいた。

増田理事長は「2日間で得た技術を来年の試験だけでなく日頃の業務にも役立てられるように重点だ」と技術習得の必要性を訴えた。

参加者らは、鋏断からヘリを縫い止める等出し、ござ張りなど細かい作業を黙々とこなしていた。その間、増田理事長がいわの寄らないござの張り方を指導したり、原田氏が直接指導やアドバイスを行い、若手の畳業者らは真剣な表情でプロの技を学んでいた。

増田理事長は「2日間で得た技術を来年の試験だけでなく日頃の業務にも役立てられるように重点だ」と技術習得の必要性を訴えた。